

いしかわ

まちづくり View ビュー

No. 57

目次

■特集	都市計画道路鳴和三日市線 中島大橋の開通	……1
■	あのまち、このまち“まちづくりめぐり” のと里山海道(主要地方道金沢田鶴浜線) 内灘白帆台IC整備事業の完成	……4
	いしかわ広告景観賞について	……5
■	センターだより	……6

特集

都市計画道路鳴和三日市線 中島大橋の開通

1 はじめに

都市計画道路鳴和三日市線は、金沢市街地の交通を支える重要な幹線道路であるとともに、沿線には金沢市中央消防署や金沢東警察署が立地し、第1次緊急輸送道路に指定されるなど、県民の皆様方の安全・安心を支える重要な路線です。

このうち、浅野川をわたる中島大橋は、昭和29年の建設から約60年が経過し、老朽化が進んでいました。さらに、4車線で整備されている都市計画道路鳴和三日市線において、唯一の2車線区間であり、車道幅が狭く、交通のボトルネックとなっていました。

こうしたことから、県民の皆様方の安全・安心の向上と、金沢市街地のさらなる交通の円滑化を図るため、平成26年度より4車線での架け替え事業に着手し、本年11月に開通を迎えました。



▲ 位置図



▲ 架け替え前の混雑の様子

2 事業の概要

路線名：都市計画道路 鳴和三日市線

位置：金沢市昌永町～笠市町 地内

延長：L=280m(うち橋梁部 L=40.8m)

幅員：W=20m

橋梁形式：

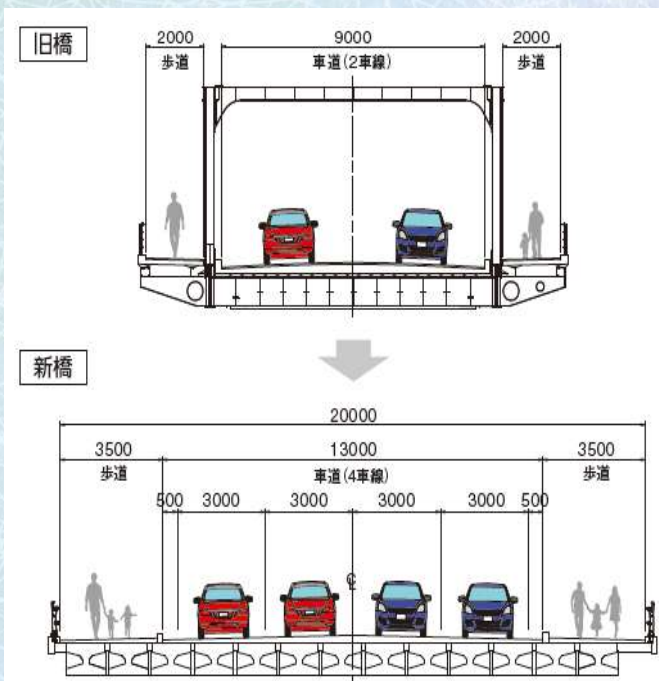
(上部工) ハイプレストレス方式PC単純I桁橋

(下部工) 逆T式橋台 2基

事業着手：平成26年度



▲ 中島大橋 (新橋完成時)



▲ 標準断面図

3 橋のデザイン

この地域は、藩政期に全国に流通した菅笠の笠市が開かれていたほか、浅野川の舟揚場である堀川揚場があり、賑わいの拠点でありました。

その後、本県の伝統工芸品である金沢箔の生産拠点として発展するなど、地域固有の歴史や伝統の面影が今なお残っています。

このため、新たな中島大橋の整備にあたっては、地元の皆様のご意見をお伺いしながら、菅笠をイメージした照明灯や、川舟をモチーフとした橋名板、金箔を用いたレリーフを施した高欄といった、この地域の歴史・伝統の特性に相応しい意匠を凝らしました。



4 開通式

令和2年11月23日（月祝）には、石川県の主催による「都市計画道路鳴和三日市線 中島大橋 開通式」が、知事をはじめ、国会議員や県会議員、金沢市長、地元代表者などの関係者列席のもと、執り行われました。

閉式後には、世代を超えて末永く地元の方々に愛される長寿の橋となるよう、願いを込めて、地元堀川町の三代夫婦を先頭に渡り初めが行われました。

5 おわりに

今回の開通により、地域の皆様方の安全・安心な通行が確保されることはもとより、北陸新幹線の金沢開業以降、本県の玄関口として賑わいを見せている金沢駅周辺において、交通の円滑化が図られ、県都金沢の発展に貢献するものと考えています。

また、加賀百万石の歴史情緒が感じられるこの橋が、地域のシンボルとして、多くの方々に末永く親しまれることを心より期待しています。



▲ 開通式（テープカット）



▲ 三代夫婦渡り初め

【問合わせ先】

石川県土木部都市計画課

TEL:076-225-1758

E-mail:toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

のと里山海道（主要地方道金沢田鶴浜線） 内灘白帆台 I C 整備事業の完成

1 はじめに

令和2年10月11日、「のと里山海道（主要地方道金沢田鶴浜線）内灘白帆台インターチェンジ」が供用開始しました。

本事業は、平成30年度より本格着工し、国、県をはじめ、関係各位のご理解とご協力により、このたび、完成することができました。

本事業の完成により、金沢方面への乗り入れが可能となり、既存の内灘インターチェンジと合わせ、フルインターチェンジとしての機能を持つこととなります。



▲ 内灘白帆台 I C 全景

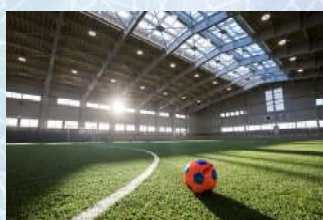


▲ 位置図

2 事業の目的及び効果

長年の課題であった内灘南部地区と内灘北部地区の均衡ある発展と、北部地区の定住促進を図ることを目的とし、以下のとおり整備効果が得られるよう整備を行ってまいりました。

- ①交通の利便性が向上することで、北部地区の人口増加、定住促進が進展
- ②金沢方面へのアクセスの利便性向上により、町の魅力である北部地区の豊かな自然のほか、内灘町総合公園内のスポーツ・レクリエーション資源の利用促進など、更なる交流人口の拡大に寄与
- ③河北潟放水路で分断された南北の道路ネットワークの強化・充実



▲ 屋内多目的広場



▲ 海族船遊具

3 事業の概要

①整備延長

- のと里山海道 金沢方面乗り口(ランプ) L=755m
- 白帆台方面降り口(ランプ) L=630m
- 町道準幹4号線(のと里山海道へ接続) L=670m

②事業期間 平成28年度から令和2年度(5年間)

③事業主体 内灘町

④事業費 約9億6千万円

4 おわりに

整備後は、通勤や日常生活などにおいて、利便性が向上することから、白帆台地区をはじめ、北部地区での定住促進につながるものと期待しております。

また、近接する内灘町総合公園には、海族船遊具や野球場、そして人工芝のサッカー場や屋内多目的広場などがあり、より一層、交流人口も増加し、今後、益々、活性化することを期待しております。



▲ 人工芝のサッカー場



▲ 展望温泉ほのぼの湯

【問合わせ先】

内灘町都市整備部都市建設課

TEL:076-286-6710

E-mail:toshi@town.uchinada.lg.jp

いしかわ広告景観賞について

1 はじめに

屋外広告物は、景観を形成する重要な要素であり、無秩序に設置されると街の魅力を損ねてしまう一方、良質でデザイン性が高い広告物は訪れる人々にまちの表情として好印象を与えるものとなります。

石川県は、霊峰白山や加賀・能登の海岸など多彩な地形が織りなす自然景観をはじめ、優れた景観資源を有しています。こうした本県の誇る貴重な財産を守り育てながら後世に引き継いでいく必要があります。県では、良好な景観形成につながる優れた屋外広告物を表彰する「いしかわ広告景観賞」を実施しております。

2 事業概要

いしかわ広告景観賞は、本県が全国に先駆けて、都市景観等の向上と屋外広告物に対する県民の関心を高めることを目的として、昭和63年から実施し、本年度で33回目を迎えました。

【第33回いしかわ広告景観賞の概要】

主催：いしかわ広告景観賞実行委員会

(石川県、金沢市、石川県屋外広告業協同組合)

審査：審査委員長 大場吉美金沢学院大学名誉教授

表彰：知事賞（公共部門、民間部門） 2点

金沢市長賞 1点

石川県屋外広告業協同組合理事長賞 1点

各後援団体賞 10点



▲ 表彰式



▲ 受賞者による作品説明（表彰式）

3 受賞作品（第33回いしかわ広告景観賞）

- ・石川県知事賞（公共部門）



▲ イカの駅 つくモール

- ・石川県知事賞（民間部門）



▲ 恵愛みらいクリニック

4 おわりに

来年度も、本県のイメージアップにつながる景観の創出に寄与する優れた「屋外広告物」の応募をお待ちしております。

【問合わせ先】

石川県土木部都市計画課

TEL:076-225-1759

E-mail:toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

センターだより

～「白山市まちづくりシンポジウム in 白峰」を開催しました～

まちづくりに必要な視点や考え方を学ぶ

公益財団法人 いしかわまちづくり技術センターでは、住民主体のまちづくり活動への支援やシンポジウム・研修会の開催など、まちづくりに関する様々な活動をサポートしています。

今回、その取り組みの一環として、合併15周年を迎える白山市において、「この地域に住み続けるためのまちづくり」をテーマに、「白山市まちづくりシンポジウム in 白峰」を開催しましたので、ご報告させていただきます。

開催概要

開催日：令和2年10月17日（土）

場 所：白峰コミュニティホール

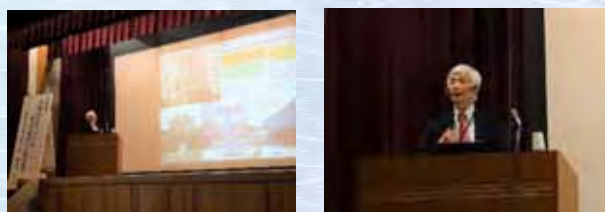
内 容：基調講演及びパネルディスカッション



会場の様子

基調講演

基調講演では、金沢工業大学教授の谷明彦氏に「白峰のまちづくり - 成功の秘訣と今後の展望」と題してご講演いただき、雪だるまカフェなど金沢工業大学の学生達が白峰地区で取り組んできた活動の成果や、重伝建による地区の価値付け、今後の更なる展望などについてお話をいただきました。



基調講演の様子

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、白峰観光協会会長の山口隆氏をコーディネーターにお迎えし、5名のパネリストの方々と「この地域に住み続けるためのまちづくり」をテーマに討論を行いました。

東京大学の松原宏教授からは、白峰にフィールドワークのサテライト拠点を構える東京大学 地域未来社会連携研究機構の概要や学生達が白峰でまちづくりに取り組むことのメリットについて、金沢大学のアイダ准教授からは留学生から見た白峰の魅力について、そのほか白峰で活躍されている3名の方々からは、それぞれの取り組み内容や移住を決意した理由、日々の楽しみや人との関わりなどについてお話をいただきました。



パネルディスカッションの様子

参加者の声

- ・大学側の積極的に地域に関わろうという姿勢が伝わった。白峰の人の温かさが学生と上手く連携し、若者、よそ者を受け入れていることに感心した。
- ・同じ地域のまちづくりでも、視点が違うと取り組みの切り口が違って興味深かった。
- ・住民、大学、行政のトライアングルが良く出来ている。
- ・様々な動きがあることを知った。継続していくことが望まれる。

編集後記

今回は、中島大橋の開通について特集しました。橋は地域を結ぶ道路というだけではなく、昔からその地域を代表するもので地域の特色が分かることもあります。知っているようで知らなかった地域の特色・魅力を見つけていくのも楽しいですね。

当センターでは、皆さまのまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりに関する情報発信に努めています。是非、お気軽にお問い合わせください。

編集協力：石川県(都市計画課)、内灘町

発行：公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター

TEL：076-239-1616 FAX：076-239-1606

HP：<https://www.machisen.jp/>

発行日：令和2年12月